

「Smuggled in Potato Sacks」リトアニア語版出版記念行事
藪浦外務大臣政務官あいさつ

ラーバス・ヴァーカラス！（リトアニア語で「こんばんは。」）

今晚は、このような挨拶の機会を頂き、感謝申し上げます。まず、「Smuggled in Potato Sacks」リトアニア語版の出版をお祝い申し上げます。

今回、私は、ナチス占領下のカウナスで、自らの危険を顧みず、多くのユダヤ人児童を救い出した勇敢な市民がいたことを知りました。彼らの勇気ある行動に心から敬意を表します。

「Smuggled in Potato Sacks」のリトアニア語版が出版されることで、より多くのリトアニアの人々が、先人の偉業を知るでしょう。彼らは、正義を信じ、差別のない世界の実現を目指し、リトアニア人、ユダヤ人にあまねく自由をもたらすために闘いました。

ほぼ同時期、ここカウナスで副領事を務めていた日本人外交官杉原千畝も、ナチスの迫害を逃れてきたユダヤ系避難民に対して、日本通過を許可する「命のビザ」を発給し、多くの命を救いました。杉原氏が発給した査証で救われた人々は、6,000人とも言われています。今年は、それから75周年に当たります。

杉原氏の人生に着想を得たオペラ「桜の記憶」が、昨年1月カウナスで上演されました。さらに、別のオペラも5月にビリニユスで上演されます。

第二次世界大戦が終了してから、今年で70年です。日本は、戦後の平和国家としての歩みを止めることなく、「積極的平和主義」の下、世界の平和と安定に一層貢献していく考えです。その前提として、戦争を経験した人々に敬意を表し、過去の悲惨な歴史を個人の記憶としてではなく、人類共通の記録としてとどめ、次世代へと語り継いでいく努力が重要です。

杉原氏の勇気ある人道的行為を広めるため、本日の行事の共催者である杉原記念館が活動されていることに日本政府として感謝いたします。リトアニアの皆様にも、同館の維持のための活動や貢献を御支援いただければ幸いです。

最後に、「Smuggled in Potato Sacks」リトアニア語版の出版により、おそれを知らないカウナス市民の行動が、子ども達のそして未来の輝かしい手本となり、勇気と博愛に満ちた行動に向かって導くことを期待します。

アチュー。（リトアニア語で「ありがとうございました。」）

（了）